

古山  
道中

藤  
為  
糸  
毛

二  
上

^ 13
3664
3



相門遠  
良半州

門 13  
號 3664  
卷 3

大山 道中 栗毛二編 自序

夫一日而千里也 驚馬十

駕士也 則亦及之 每

高字れをえふ 活活と 栗毛

はえまふ所の 空尾ハ 亮

年々 其本 十

二

新刊  
御書

編書の大々黄金の腹より巻  
 乃駒彼膝くら利をある驥子  
 一ト鞍後馬とんり豹の  
 樂行以乗さしむしお静死た山あぐら  
 驚馬はたんとカ革及ぶ中しんを  
 ぬねどんはが二日に還る二日  
 四度踏ふ歩の足相子を發  
 張緒かく合とおども川とぞと弱  
 腰の異雅私乗え新豹あぐら  
 せわく乗馬よりば舟の棹る  
 大根の附出ふ急な織を  
 書肆行来終り眼のく味

六十一二

〇五二



琴通舎

日盛の縁ハ酒の

あつあん

あんとくをちや

赤うんをゆらん

英賀

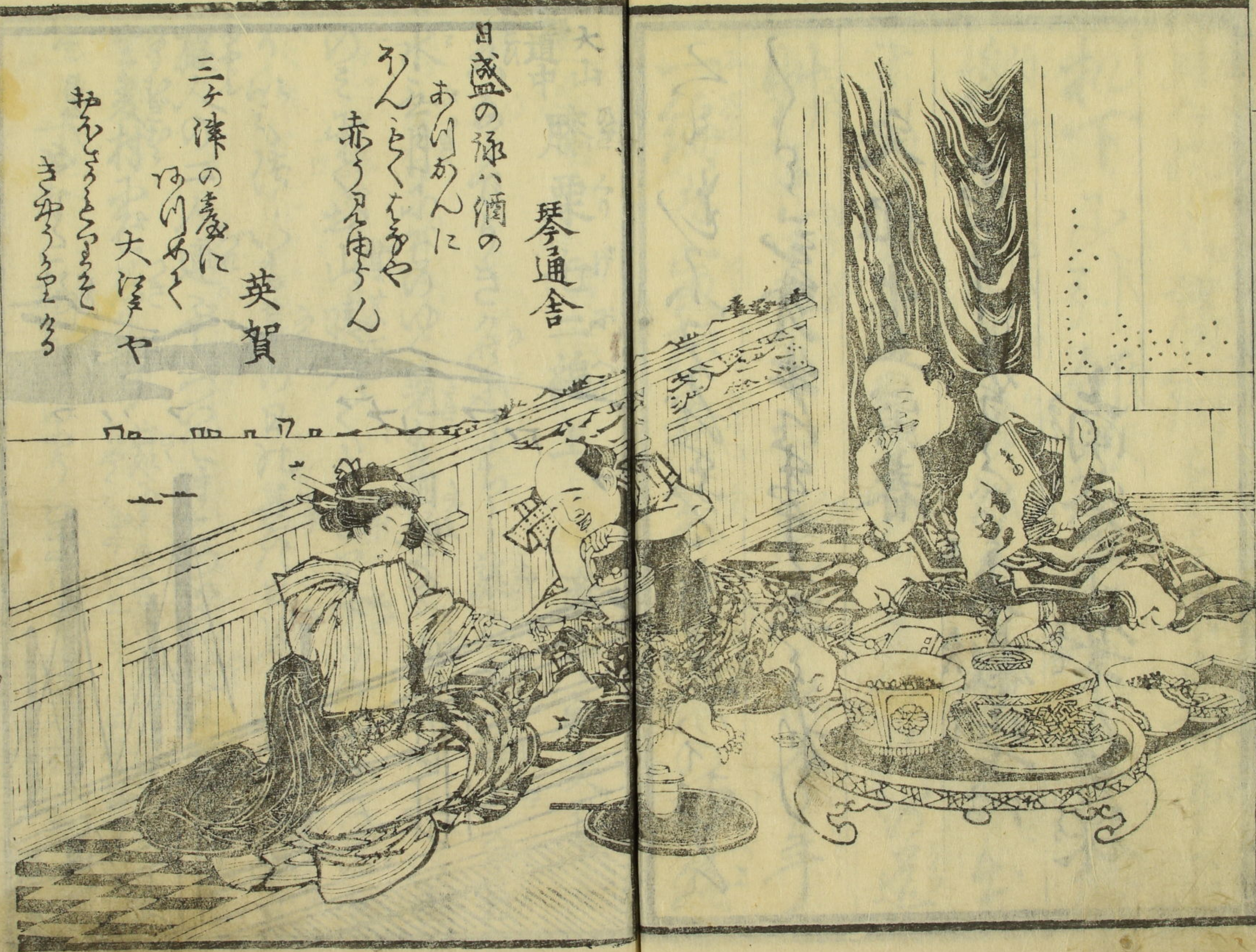
三ヶ津の巻に

何れあそ

大澤や

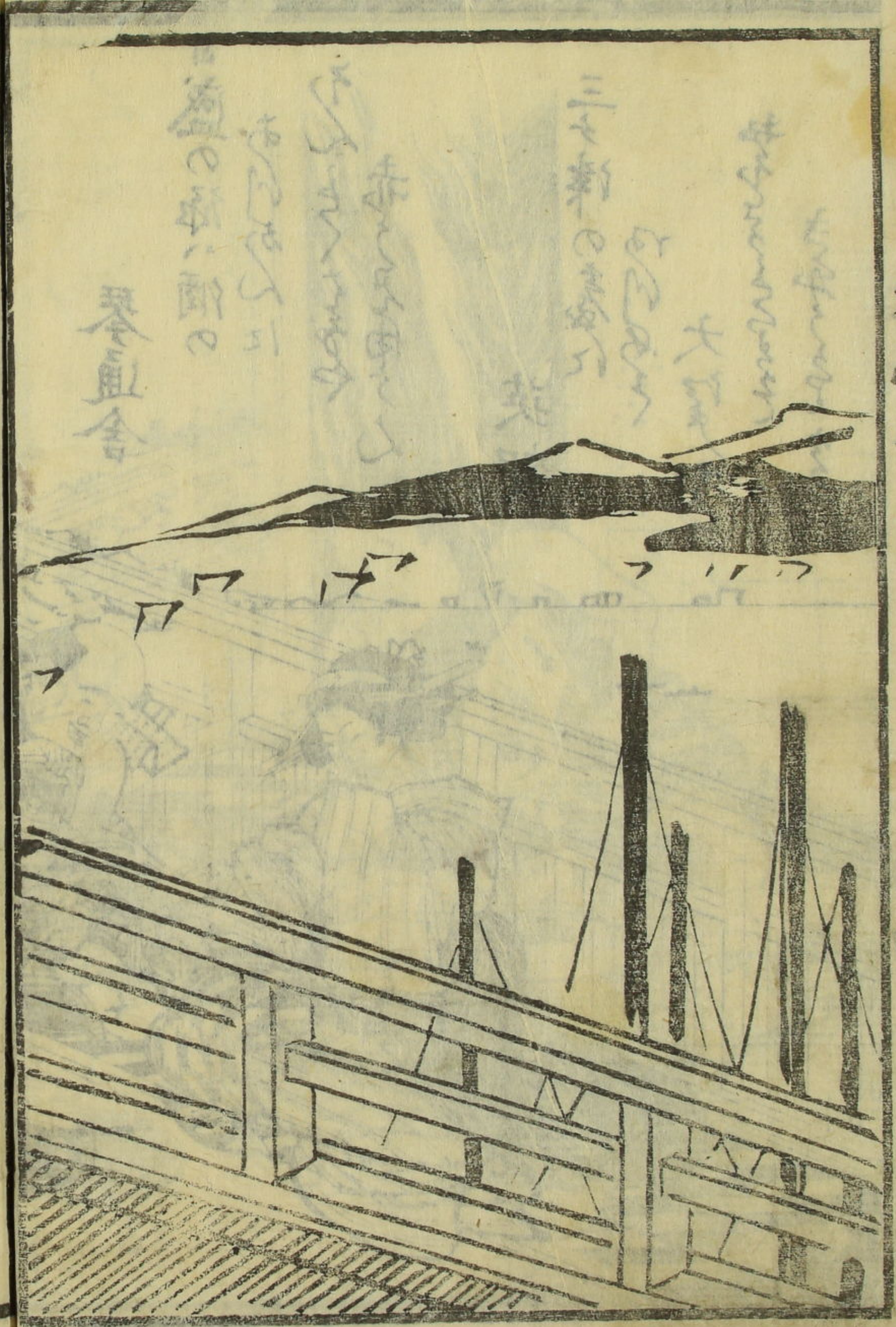
おんころも

きやうらま



大山二

三ヶ



大山 藤栗七二編上 滝亭鯉丈著

道中 意あつてうきなふさし〜旅の夜。雲あるぬ  
 水五月ふ。そのゆ先も相控ある。雨ありの神へ名  
 のこす。お山晴天くとおま下りのおきつひら。  
 りぬもほつても夏の日は長た日はよ寝るの旅あり  
 旅人の二人連ぶつてまごつて。足よ夏かたのた  
 生麦村中をよける。はたあつたあつたのちを遠より。あつたあつたの  
 見入る。おまおまおまおま。おまおまおまおま。おまおまおまおま。

大山

〇一







事へるゑと徳利ううゆ。さすを道下戸あねつらう。  
 てめんと地とううま本このごさ。イヤえんごあううごトあ  
 中あつて後まま 事へれ さまあ さまあ  
 存たふあり 一は さまあ さまあ さまあ さまあ  
 めんご。おうぐうあふえのあまんがあつてあまのう  
 さすのあまののさ。さすはけ入 さまあ さまあ さまあ さまあ  
 ゆいりくす。何ふふささささささささささささささささ  
 事へあねるのあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつて  
 徳利うう蛇がさささささ。おうぐあねと地とをふと

志えんで本さふちげのねん 事へさうして初てあつて  
 日下らう。あまのあまののあまのあまのあまのあまのあまの  
 さえあまのあまのあまのあまのあまのあまのあまのあまの  
 ころうわん。さすとも大森で徳とつけく其ふあつて  
 づうのあまのあまのあまのあまのあまのあまのあまのあまの  
 みるあまのあまのあまのあまのあまのあまのあまのあまの  
 イヤあまのあまのあまのあまのあまのあまのあまのあまの  
 事へる。は徳利ううさささささささささささささささささ



あづり持ていつとつれつけが。はらぬえとあづり  
 きでぢやとあづりきた。風呂あづり付あづり  
 うら同徳利があ方にあつこのんづらう。日らう  
 先のぢやのあづりつけらうとあづり。先でも又日らう  
 つけあづりとあづりこのんづらう。其まにうらう  
 めんぞとあづりまはた。ヤハヤ氣のぶくふ方と  
 まい。定めてあづりでも。まむとあづり氣で  
 酒があづり。さうとあづりあづりあづり。さうあづり

あづりあづりあづりあづりあづりあづりあづりあづり  
 む娘子廿二日あづりあづりあづりあづりあづりあづり  
 そくきにあづりあづりあづりあづりあづりあづりあづり  
 つらま。あづりあづりあづりあづりあづりあづりあづり  
 らうが今あづりあづりあづりあづりあづりあづりあづり  
 方のあづりあづりあづりあづりあづりあづりあづりあづり  
 五十九あづりあづりあづりあづりあづりあづりあづりあづり  
 びーあづりあづりあづりあづりあづりあづりあづりあづり  
 のあづりあづりあづりあづりあづりあづりあづりあづりあづり  
 あづりあづりあづりあづりあづりあづりあづりあづりあづり



口ひらいておぼしむ。お世下やアは元のあつあつする  
 てもかゝるやうなやあま方ふ。チトヤとてははる  
 まのうへにさしおされるとあつあつあつする。ふんふん  
 ころころとよふふふりませ。おま方もあつあつけん  
 るあつあつ。 進 何サアやうけん おま マアく コ け  
 ころころと コ ころ ア 大 社 合 と 福 へ ほう さ ぱ ア  
 どうあつあつとあつあつあつ。まづく げ 志 お え の あ ん  
 へのあつあつ こ り あ ん ご。 お 小 智 の 元 と ん ご あ ふ

合せ の 考 へ く わ ち ー こ け も ご ざ り ま せん。 か ん  
 元 さ り あ ち り ま。 其 の 小 己 ー か ひ の こ ま あ つ  
 て お り ま ず う。 お ち へ 旅 方 ハ き ん お り で る ま い  
 ま ー ト あ つ と ま へ 何 サ あ の え ん で ち 娘 も 死 ね る の の  
 り も あ り ま ず あ つ。 あ つ ら あ ち も お よ む わ ん  
 ー や あ ん ご さ ら な を あ つ。 社 合 る あ の ハ 何 の  
 ま ー め ご 福 へ さ う さ 今 ご ら ハ あ せ へ く お ー と  
 舞 の と 居 か る あ つ う ハ ハ

大正十一年四月  
 けきとせめておれりもあつ



一のぢ何うほよりの由ごちそうでござりませ  
 らし福ふく入いそりよぢの世よ香かどあが。今のそりよう  
 でのさあきまう。まうく一ひとまふあつうあり  
 うて入い袋ふくろでっことけり  
 一ひとはは辨は小こ引ひききあつうせーとまうくは

今いまのぢぢおおあありりととううままうう  
 一ひとはは辨は小こ引ひききあつうせーとまうくは  
 駕かのの元もとととううままうう  
 一ひとはは辨は小こ引ひききあつうせーとまうくは

一のぢ何うほよりの由ごちそうでござりませ  
 らし福ふく入いそりよぢの世よ香かどあが。今のそりよう  
 でのさあきまう。まうく一ひとまふあつうあり  
 うて入い袋ふくろでっことけり  
 一ひとはは辨は小こ引ひききあつうせーとまうくは

まゝと。そんがの小ぢいぞとつたひづたるるどお  
瓶ねん中なかまゝと 瓶ねん「まゝ」 瓶ねんあぢく。コウその巻まきとやう  
いふのあつき「まゝ」でびんりやまは。よらあどの  
がりまゝと 瓶ねん「まゝ」の茶ちやをでもあつきの「それ」  
まゝあつきのまゝ。いくらまゝぢいさまは。 大山  
まゝの海うみまゝ。一々たんの宿しゆくをまゝも茶ちやをま  
よのまゝとせんぢいさまは。そゝと女め屏びんもま  
まゝあつきのまゝ。 瓶ねん「まゝ」まゝとやう「まゝ」わん。

まゝ 使つかえんまゝののりまゝ人のがらで 香かうづま  
あやうわん。まゝ「まゝ」の「まゝ」はまゝ「まゝ」まゝ  
わん「まゝ」まゝ「まゝ」まゝ「まゝ」まゝ「まゝ」まゝ  
まゝ「まゝ」まゝ「まゝ」まゝ「まゝ」まゝ「まゝ」まゝ  
まゝ「まゝ」まゝ「まゝ」まゝ「まゝ」まゝ「まゝ」まゝ  
まゝ「まゝ」まゝ「まゝ」まゝ「まゝ」まゝ「まゝ」まゝ  
まゝ「まゝ」まゝ「まゝ」まゝ「まゝ」まゝ「まゝ」まゝ  
まゝ「まゝ」まゝ「まゝ」まゝ「まゝ」まゝ「まゝ」まゝ  
まゝ「まゝ」まゝ「まゝ」まゝ「まゝ」まゝ「まゝ」まゝ  
まゝ「まゝ」まゝ「まゝ」まゝ「まゝ」まゝ「まゝ」まゝ



けあてかのごとく山と申でござるまじし  
 けあてのらんをのりて  
 けあてのらんをのりて  
 けあてのらんをのりて  
 けあてのらんをのりて

ほいこのまじり目のうはるあり

山中の祝おののり  
 山中の祝おののり  
 山中の祝おののり  
 山中の祝おののり

目おとる一  
 目おとる一  
 目おとる一  
 目おとる一















此段文字係用草書書寫，內容多為重複性詞句，如「此段文字係用草書書寫」等。文字佈局呈縱向排列，佔據了畫框內的大部分空間。









くむるるのやわくおきもかえと氣が分るやう。まゝが  
先入いん<sup>ど</sup>先<sup>ど</sup>うう。まゝうと居<sup>の</sup>のど。おれがまゝ  
おけく。赤<sup>あ</sup>ま<sup>ま</sup>ぶ<sup>ぶ</sup>あ<sup>あ</sup>う<sup>う</sup>。ま<sup>ま</sup>く<sup>く</sup>か<sup>か</sup>の<sup>の</sup>内<sup>うち</sup>も<sup>も</sup>い<sup>い</sup>え<sup>え</sup>られ<sup>れ</sup>入<sup>入</sup>  
編<sup>へ</sup>その<sup>の</sup>や<sup>や</sup>お<sup>お</sup>き<sup>き</sup>も<sup>も</sup>お<sup>お</sup>れ<sup>れ</sup>ま<sup>ま</sup>う<sup>う</sup>る<sup>る</sup>ま<sup>ま</sup>う<sup>う</sup>と<sup>と</sup>サ<sup>サ</sup>上<sup>上</sup>う<sup>う</sup>先<sup>先</sup>へ  
お<sup>お</sup>ち<sup>ち</sup>う<sup>う</sup>ま<sup>ま</sup>ま<sup>ま</sup>く。お<sup>お</sup>れ<sup>れ</sup>小<sup>こ</sup>お<sup>お</sup>ち<sup>ち</sup>は<sup>は</sup>う<sup>う</sup>ま<sup>ま</sup>う<sup>う</sup>お<sup>お</sup>入<sup>入</sup>。ま<sup>ま</sup>る<sup>る</sup>の<sup>の</sup>の<sup>の</sup>  
ま<sup>ま</sup>う<sup>う</sup>一<sup>一</sup>お<sup>お</sup>ま<sup>ま</sup>あ<sup>あ</sup>う<sup>う</sup>。又<sup>又</sup>は<sup>は</sup>ま<sup>ま</sup>の<sup>の</sup>の<sup>の</sup>ま<sup>ま</sup>う<sup>う</sup>お<sup>お</sup>う<sup>う</sup>ま<sup>ま</sup>う<sup>う</sup>く

あきりける

大山 藤栗毛二編上 終

遠州 門良

